

授 業 科目名	【 G 】	刑法(総論)Ⅱ				区 分	開講年次	【 G 】 2	単位数	【 G 】 2
	【 H 】	刑法(総論)Ⅱ				選 択		【 H 】 2		【 H 】 2
科目区分	専門科目									
授業形態	対面授業									
担当形態	単 独									
施行規則に定める科目区分又は事項等										
サブ タイトル	犯罪論の後半部分						担当者	百 合 草 浩 治		
授業概要	【概要】	犯罪論(犯罪の一般的成立要件に関する理論)の前半部分の基本的かつ重要な解釈論上の諸問題を講義する。 なお、①予習・復習のやり方、②小テスト等の準備の仕方、③ノートの取り方等についての「授業への取り組み方」については、第1回目の講義において、詳しく説明するので、必ず出席すること。								
	【到達目標】	犯罪論の後半部分の基本的かつ重要な解釈論上の諸問題について、正確に理解できること。								
履修条件	特になし。ただし、第1回目の講義には必ず出席すること。									
アクティブ ラーニングの 方法	【－】	事前学習型	【－】	反転授業	【－】	調査学習	【－】	フィールドワーク		
	【○】	双方向アンケート	【○】	グループワーク	【○】	対話・議論型授業	【－】	ロールプレイ		
	【－】	プレゼンテーション	【－】	模擬授業	【－】	PBL	【－】	その他		
ディプロマ・ ポリシーとの 関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①		◎ (よく当てはまる)							
	DP(ディプロマ・ポリシー)②		－ (当てはまらない)							
	DP(ディプロマ・ポリシー)③		－ (当てはまらない)							
	DP(ディプロマ・ポリシー)④		－ (当てはまらない)							
他科目との 関連性	【刑事法関係の開講科目】刑法概論を受講のうえ、刑法(総論)Ⅰ・Ⅱ、刑法(各論)Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法Ⅰ・Ⅱを受講されたい。ただし、その順序は問わない。ほかに、情報法Ⅰ、特殊講義(特別刑法Ⅰ・Ⅱ)、特殊講義(刑事政策)と講義内容において密接に関係する。									
教科書	特に指定しない。 復習の際に、特に、有益なのは、和田俊憲『どこでも刑法Ⅱ総論』有斐閣、辰井聡子ほか『刑法ガイドブック(総論)』信山社、井田良『入門刑法学総論』有斐閣、松宮孝明(編)『ハイブリッド刑法総論』法律文化社、高橋則夫『刑法の考え方』信山社、井田良ほか『ケーススタディ刑法』日本評論社、成瀬幸典ほか(編)『判例プラクティス刑法Ⅰ総論』信山社、井田良ほか(編)『刑法総論判例インデックス』商事法務【最新の版】など									
参考書	ほかに、大塚裕史ほか『基本刑法Ⅰ総論』日本評論社、佐久間修ほか『刑法基本講義総論・各論』有斐閣、内田幸隆ほか『刑法総論』有斐閣、大谷實『刑法講義総論』成文堂、松宮孝明『刑法総論講義』成文堂、安田拓人『基礎から考える刑法総論』有斐閣、『刑法判例百選Ⅰ総論』有斐閣、前田雅英ほか『最新重要判例250刑法』弘文堂、山口厚ほか『判例刑法総論』有斐閣、十河太郎ほか『刑法総論判例50!』有斐閣、前田雅英ほか『条解刑法』弘文堂など									
評価方法	小テスト[複数回実施]の合計点で評価する。									
フィードバック 方法	①小テスト実施後に、全体的な状況についての「講評」を公開する。 ②講義内容に関する質問等は随時、受け付ける。必要に応じて、講義でもそれに触れる。									
評価基準	上記授業内容について、これをよく理解し、適切に表現できた者には、その程度に応じて「S」または「A」を与える。授業内容についての理解度や表現内容に十分ではない点がある者は、その程度に応じて「B」または「C」とし、授業内容についての理解自体が最低限度の水準に達していない者は、その程度に応じて「D」または「E」とする。小テストを全く受けていないなど評価不能な場合には「F」とする。									

授 業	【 G 】	刑法（総論）Ⅱ	区 分	開講年次	【 G 】 2	単位数	【 G 】 2
科目名	【 H 】	刑法（総論）Ⅱ	選 択		【 H 】 2		【 H 】 2
授業回数	授業内容						
1	ガイダンス、イントロダクション。前期の講義内容の復習。講義全体を通じて、何を学ぶのかについて説明する。違法性論概説						
	予習： 教科書全体の通読。		復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。				
2	正当防衛論① 総説						
	予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。		復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。				
3	正当防衛論② 重要判例						
	予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。		復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。				
4	安楽死・尊厳死・終末期医療と刑法						
	予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。		復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。				
5	責任論：概説、責任能力論、原因において自由な行為、違法性の意識の可能性など						
	予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。		復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。				
6	未遂犯論、実行の着手① 総説						
	予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。		復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。				
7	未遂犯論、実行の着手② 重要判例						
	予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。		復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。				
8	不能犯論① 総説						
	予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。		復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。				
9	不能犯論② 重要判例						
	予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。		復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。				
10	中止犯論① 総説						
	予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。		復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。				
11	中止犯論② 重要判例						
	予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。		復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。				
12	正犯と共犯						
	予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。		復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。				
13	共犯論						
	予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。		復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。				
14	罪数、刑法の適用範囲、刑罰論						
	予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。		復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。				
15	まとめ						
	予習： 教科書全体を改めて再読する。授業ノートの確認。		復習： 教科書全体を改めて再読する。授業ノートの確認。				
その他	講義では適宜条文を参照するので、最新の六法（出版社は問わない）を必ず持参すること。 また、判例を確認するため、参考書①を度々参照する予定である。こちらも持参すること。 なお、私語等の授業を妨害する行為を行う学生に対して、退室を命じることがある。						